

# 東京陵水

賀正  
平成20年元旦  
陵水会東京支部役員一同

11	面	目次
5	面	年頭挨拶
3	面	第二回役員幹事会の開催
2	面	中国視察旅行記
1	面	小田美氏の訃報から兄への回想
16	面	懐かしの彦根
15	面	米国年金後日譚・困基会
14	面	ゴルフ談義・陵水散歩会
13	面	彦根コンフィデンス・シャル
12	面	年会費納入者一覧・広告

当番幹事(二十回卒生)会議により左記に決定した。

○開催日 平成二十年五月二十一日(水)

○開催場所 明治記念館(港区元赤坂二丁目)

○特別講演講師 山崎一真滋賀大学教授。地域デザイナー。野村総合研究所、地域政策研究部長、新社会システム研究センター長を経て、平成十四年から現職。専攻は地域政策論。

新年あけましておめでとうございます。平素は、陵水会東京支部の活動にご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

ここ数年好調な輸出と高い設備投資に支えられ堅調に推移して来た日本経済も、米国のサブプライムローン問題の深刻化による世界的な株価下落や最近の急激な円高等の不確定要因から、新年度は風向きがかなり変わりそうな気配が感じられます。東京陵水の皆様も昨今は新聞やテレビの経済欄を従前にも増して注目されていることと存じます。

さて、東京陵水の新年度の最大目標は五月の年次総会に多く



## 年頭挨拶

### 二十年五月の年次総会を成功させよう

陵水会東京支部長 西坂 徹雄(大9回)

の会員の方にご参加頂き、盛大で充実した総会を開催することにあります。我々役員一同は総会こそ陵水会活動の原点であり、最重要イベントと認識しております。

お蔭様で本年度の幹事役である大学二十回卒業生の多数の方々が既に何度も集まれ、素晴らしい総会の開催を目指し着々

と準備を進めておられます。「同じテーブルで同窓会をしよう」を合言葉に、二十年五月二十一日(水)に「明治記念館(信濃町駅三分)を予約されました。今回の総会は参加者の皆さんが楽しく語り合える雰囲気、美味しい料理と十分なお酒、魅力的な講演会とアトラクション、

御蔭で順調に進行しております。

## 平成二十年度総会要領決まる



山崎一真教授



明治記念館

一方東京支部の十九年度の年会費につきましては、既に三百七十人の会員の方から合計百三十七万円の納入を頂きました。何かの事情で納入が遅れた方々には本会報の発送時に「払込取扱票」を同封致しましたので、誠にお手数をおかけし恐縮ですが、十九年度分会費三千円の振込みを御願ひ申し上げます。

陵水会のあらゆる活動は会員の皆様方一人一人のご支援により支えられていることを役員一同深く認識し、新年度も尽力致す所存ですのでよろしくご協力の程御願ひします。

最後になりましたが、新年が会員の皆様にとって素晴らしい年になりますよう心から祈念申し上げます。

平成十九年度

## 第二回役員幹事会の開催

平成十九年十一月二十八日（水）午後六時四十分から、千代田区大手町アーバンネット大手町ビル「デイ・ナイト」大手町店において、本年度第二回の役員幹事会が、役員幹事約六十名の出席の下に開会された。議事進行を加藤博善幹事長が当り、ホームページの活用促進、支部会費の納入状況と納入率向上策、教育研究支援基金募金状況、東京陵水九十四号の準備状況、平成二十年総会について等の報告審議がなされた。

始めに西坂徹雄東京支部長から次の挨拶（要旨）があった。今日は役員幹事の多数のご出席で有難い。三つ要点を話したい。①事務局の設置場所は昨年引き続き守谷貞夫副支部長のご好意により、守谷輸送機工業（横浜市金沢区福浦一―一四―九）に置かせて頂くことになった。守谷氏、前事務局長田村寿夫氏にお礼申し上げたい。②教育研究基金の募金状況は今のところでは他支部に対し東京が先行している。個人ではヨット部出身が多い。企業献金も徐々に進んでいる。③来年度総会の準備が二〇回卒生が当番幹事で進められている。東京陵水会にとって最大のイベントは総会。今年には出席者一五〇名規模を目指したい。本日の出席者が中心になって、出席者の勧誘をお願いしたい。

〇ホームページの活用促進について  
ホームページ運営委員会で検討、実施することにした「東京支部会員のメールアドレスを陵水会東京支部のメーリングリスト（ML）に登録する」につき木津勝治副幹事長から説明。

①メーリングリストとは  
@treeml.com は一つのメールアドレスに自動的に届く複数のメールアドレスのリスト。共通の用件を①のメールアドレスに送信するとMLに登録されているメールアドレスに配信。受信者は共通の案内連絡を受け取ることが出来る。

②東京支部会員メールアドレスのMLへの登録を今後各年次単位で促進を図りたい。登録作業は運営委員会で実施。このリストの利用で、東京支部の情報交換活性化につながる。

## 〇年会費の収納状況

山本保事務局長から説明。現在までの納入者四百五名から年度末百五〇万円を超えらると思われ。しかし納入率は全体の二割で低い。本日出席の会員からも未納者に呼び掛けて欲しい。

〇教育研究支援基金募金状況  
加藤幹事長から説明。十一月十五日現在の東京支部の実績は七百二十二万円。他の支部を大きく凌駕している。件数二百三件の内四件が団体企業。個人の大口寄付もおられ支部として感謝したい。募金期間はまだ残されておられ支部会員の層のご協力を依頼する。

## 〇「東京陵水」編集進行状況

林史欣編集委員から説明。一月号原稿の収集状況はほぼ順調、インタビュー取材も終了した。寄稿の受付も予定通り進行



会議場風景

している。紙面の活性化と革新を目指した提案、編集スタッフへの参加を切望している。

## 〇平成二十年総会準備状況

幹事当番代表大八木勉氏から、準備進行状況の説明があった。

開催日は平成二十年五月二十一日（水）。会場は明治記念館（港区元赤坂二丁目）。特別講演は講師に、滋賀大学産業共同研究センター教授の山崎一真氏。演題は「世界の城下町彦根を目指して」を予定している。

その他宴席レイアウト、アトラクションに抽選会等を検討している。

審議終了のあと懇親会に移り午後八時半終了した。

## 東京支部メーリングリストに登録しませんか

ホームページ運営委員会

東京支部では新たにメーリングリスト（ML）を作成しました。MLの使い方は、メールの発信としては、例えば「大学の同期会を開くので、連絡先を知らない人にも参加を呼びかけた」といった時に、MLのメールアドレスにご案内のメールを送信されますと、東京支部のMLに登録されているすべてのメールアドレスにその案内が届きます。

なお、運営費節約のためMLを提供している企業のシステムを使用していることから、当初は当該企業を通じた広告メールが届きますが、広告メール内に記載されている簡単な手続きにより、その後の広告メールを受信しないよう設定していただくことが可能です。よろしくお願

います。

メールの受信は、ML登録のメールアドレスに、例えば、東京支部総会の日程が決定次第すぐに届きます。

申込みの方法は、東京支部のホームページのメニューの中にメーリングリストの欄のページから申し込むことができます。MLの解除はいつでも可能ですが、是非皆様のメールアドレスのメーリングリストへの登録にご協力ください。登録したアドレスには、管理者が承認したメールのみ配信されます。

ML登録に当たった費用は無料です。またお預かりしたメールアドレスは、東京支部の活動のためのみに使用し、漏洩がないよう厳重に管理し、ご本人の許可がない限り他の陵水会員等へもお伝えすることはございません。

いします。

昨秋九月のお彼岸の連休を挟んで陵水会は初の試みとして、大学の先生にも呼びかけ中国視察旅行を試みました。参加者は総員十八名、大学から近藤教授以下五名、陵水会は堀川理事長以下理事並びに支部役員十一名、新聞部学生二名の構成です。最近の日系企業の中国での事業展開は以前にも増して加速化し、加工貿易から本土市場進出へと一層の企業努力が注がれております。その中であって当然陵水会員の活躍も見られ見事な成果を挙げておられる方々がおられます。今回は中国で活躍しておられる陵水会員のツテを得て工場を訪問し、お話を聞き、又週末は史跡・名勝をまわる旅を企画しました。大学の先生方には陵水会員の中国での活躍を見聞していただき、更に生きた教材として中国の現状を肌で感じていただくことがこの旅行の大きな狙いでもありました。旅は広州（シャルマン、マブチモーター）、杭州（松下電産）、上海（シャルマン、野村資本市場研究所セミナー）の三カ所を順次訪問いたしました。

### ◎広州・東莞・深圳

一行は関西空港から一路広州を目指しました。私は香港滞在

時（一九七八―一九八七）商用でよく広州を訪れておりましたのでこの街にはなにかの親近感を抱いておりましたが、今回二十年前ぶりにおりたつてみると聞きしに勝る変容ぶりにびっくりいたしました。かつて利用した白雲空港は新白雲空港に替わり、その広大さに圧倒されるとともに、未だ完成途上であり二〇一〇年のアジア・オリンピックの最終段階に入りつつあるとのことでした。市街に出ると道路は広く縦横に延び、高速道路は広いところでは片側四車線となり、センターのグリーンベルトや側道の樹木の整備も万全でクリーンなハイウェイに驚かされました。聞くところでは中国は毎年日本の高速道路総延長ベキ口数に相当するハイウェイを建設しているとのことであり、物流は産業の効率化に必須であり中国がそのことに鋭意努力していることがよく分かります。

## 中国視察旅行記

（平成19年9月22日～同月26日）

宇治原 嘉政（大7回）

〇年のアジア・オリンピックの最終段階に入りつつあるとのことでした。市街に出ると道路は広く縦横に延び、高速道路は広いところでは片側四車



マブチモーター工場前にて

空港へは建宏有限公司（シャルマンの東莞現地法人）の総務部長湯春宇さんが出迎えてくれました。湯さんは中国からの留学生として彦根で苦学して滋賀大学経済学部・同大学院を卒業、その後シャルマン本社に勤務し、昨年より東莞工場へ出向し三五〇〇人を雇用する同工場

ばかりかけて見学いたしました。翡翠の細片を絹糸でつなぎ合わせた「玉衣」等精巧な翡翠の埋葬品に目を奪われました。夕刻、東莞市へ入りました。東莞は改革開放前はライチ畑と水田地帯の広がる人口三万人ばかりの村でありましたが、深圳経済特区の出現とともにその後背地として香港企業が先駆けとなつて企業進出が始まり、現在では人口千二百万人進出企業数一四〇〇〇社を超える一大産業都市に変貌を遂げました。整備された道路は広く、中高層のビルが立ち並び、往来する人々は若く「発展する都市」の印象を強く受けました。

銀城ホテルに到着、シャルマン現地法人の松原総経理、松吉副総経理の出迎えを受けました。夕食はシャルマン現法の招待を受け海鮮料理店へ案内されました。大きな丸い食卓を囲んで松原総経理のお話を中心に先生方ともども中国並びに中国人についての意見交換が活発に行われ和気藹々としたなか有意義な食事会となりました。翌日二十三日は日曜日のため一行は深圳方面へ見物見学に出かけ、深圳民族文化村（中国全土をミニチュアにしたテーマパーク）並びに林則徐記念館（アヘン戦争の資料を展示）を訪れました。夕刻ホテルに戻り、会議室で明日訪問するシャルマン東莞工場の概要につき松原総経理よりプレゼンテーションを受けました。その後ホテル内でマブチモーター主催の夕食会が開かれました。マブチモーター本社から羽瀧専務（大14回）が我々の訪中に合わせて東莞へ寄られ夕食会で一同を親しく迎えていただきました。

羽瀧専務は香港駐在時東莞への進出を計画、専務の表現を借りれば「ライチ畑のど真ん中に工場を建てた。今やそれが市街地の真ん中になつてしまつたこと」です。羽瀧専務が東莞市への工場進出で果たされた先駆的な役割を、東莞市は高く評価し京セラの創業者稲盛氏と並んで羽瀧専務は東莞の名誉市民としてその榮譽を称えられております。本社派遣日本人僅か三名で七〇〇〇名の社員を擁する工場は後続の日本企業進出の範となつております。この夜は羽瀧専務を囲んでいろいろとお話を伺うことができました。当初は二〇〇人ばかりの香港工場ですタートし、その後中国に十個の工場を立ち上げ今や総社員数

三万人の規模に達しているとのこと。この間のご経験は平成十八年の大学での「リーダーシップ論」の講義でも熱っぽく語られておられます。五Sの徹底のため「まづ挨拶から」と朝誰よりも早く工場の門前に立ち出勤してくる社員に朝の挨拶を続けたこと、又あらゆる機会を捉えて「マブチモーターは中国の会社ですよ、そこで働くみなさんの会社ですよ」と何百回となく訴えかけたということであります。長年の実体験から滲み出たお話は食卓の一同を魅了しました。

翌二十四日いよいよ工場見学、ホテルよりまづシャルマンの東莞工場へ向かいました。工場は敷地面積二六〇〇坪、社員数三五〇〇人（うち日本人十三名）、門を入ると右側に工場棟、左側にオフィス棟その後ろに生活棟、門前の道路を挟んでサッカーグラウンドがあります。山村さんの案内で工場へ入ります。メガネフレームは完成までに二〇〇工程ありこの工場は日本の本社工場（福井県鯖江市）と異なりメッキも含めた一貫生産工場で月に五〇〇六〇万本のメガネフレームを生産しているとのこと。それぞれの

工程を丹念に見て歩きました。完全な流れ作業のもと我々見学者にわき目も振らず仕事に向かう社員の真摯な姿勢が印象的でした。オフィス棟に戻って中国人社員の定着率が話題となりました。松原総経理の説明によると年間の離職率六〇%、全社員三五〇〇人中二〇〇〇人が一年以内に退社すること、従って求人会社を通じ常時募集することになり、これは、中国工場いづこも同じ悩みであり、それだけに中間管理者の掌握と人が替わっても微動だにしない生産管理システムの構築が必須であるとのことでした。更に最近のもう一つの悩みの種は最低賃金の引き上げとのこと。

東莞市は人口の急速な増加で市の行政能力が限界に達しており、最低賃金を引き上げローテク工場の退出を促す方向にあるという。これは中央政府の方針でもあり避けがたい状況ということでありました。オフィス棟で邦人食堂のライススケーラーをいただき再びバスに乗りマブチモーターの工場へ向かいました。

マブチモーターの東莞工場— 萬宝至実業有限公司は年産十一億個のマイクロモーターを生産し、中国市場向け七五%海外向け二五%とのことでありました。その用途は自動車向け二七%音響向け三五% 情報通信一七% 家電その他二一%で最近自動車向けのシェアが伸びているとのことでありました。聞いて驚くのは不良品率〇・一PPM（二十万個生産して一個）ということでもあります。生産のスケールが大きくしかも品質が良くてコスト力もある工場が如何に実現できたのか、中国人による中国人の管理がどのようにして維持されているのが我々見学者の関心でありました。その秘密は工場に案内されてうかがい知ることができました。工場のフロアーの各部門ごとの入り口に横長の大きなボードが掲げられており、部門長の大きな朗らかな写真とともにカラフルな文字が目飛び込んできます。説明によると部門長の自らの部門に対する夢、熱き思いが書かれており、部下は自ずからリーダーの意志を汲み取るようになっていくとのこと。これら部門長の夢は年に一度、上席管理者を集めて、夢を語る合宿

で語り合い部門長がそれぞれまとめて発表するのだということでありました。「人を基軸に置く経営」「個人のレベルアップ教育」に注力されている状況がよく分かり、安定した品質とコスト競争力強化の不断の努力がひしひしと我々にも伝わってくる工場見学でありました。

### ◎抗州

その夕広州へ戻り、満員の飛行機に乗り抗州へ向かいました。抗州空港で機内から出た所で戸田一雄氏（大12回 松下電産元副社長）の出迎えを受け一同大変恐縮いたしました。戸田氏は松下電産の事業本部長時代にこの合弁事業会社・松下電化住宅設備機器（抗州）有限公司の副董事長として董事長の秦氏（合弁相手先 抗州金魚電器社長）と二人三脚でこの会社の設立発展に関わってこられたというのであります。

翌朝、抗州駅前のホテルを出発したバスは市街を抜けると新しい広い道路をひた走り小一時間ばかりで多くの新しい建物群が見えてきました。新設された学園都市で十三万人の学生が学んでいるとのこと。そこに隣接して松下電器抗州工業園があります。タテ五四〇m×ヨコ

五〇〇mの広大な工場の玄関に着きました。一同は二階の会議室に案内され樋本氏（大26回）の司会でミーティングが始まりました。最初に戸田氏の挨拶がありこの合弁事業が順調に発展してきたのは「良き土地柄と良きパートナー」に恵まれた結果であるとお話がありました。

次に会社を代表して秦董事長の歓迎の挨拶があり更に続けて会社の発展に言及され、一九九二年に洗濯機事業を立ち上げ初年度生産台数は十万台、二〇〇六年一九五万台、今年は二五八万台、今年末で累計生産台数千五百万台達成の予定であるとのこと。この事業の基礎を築いていただいたのは戸田先生であり中国のことわざ「井戸を掘ってくれた人は忘れぬ」を引用して戸田氏の功績を称え、董事長はじめみんなで戸田氏に拍手を送りました。続いて木嶋総経理より事業概要につき説明を受けました。資本金一五七億円、二〇〇六年売上高二一〇億円、今年は二五〇億円を計画、社員数九二九名、社外工二四〇〇名中国市場向けは六〇%ということでありました。この後工場へ入りました。完成して間もないため各フロアーともゆつたりと

（5ページ四段へ続く）

# こんにちは

函館大学客員教授、年金業務  
社会保険庁監視等委員会委員  
元東洋信託銀行株式会社副社長

## 磯村 元史氏 (大4回)

(注・本文中の年月日は全てインタビュー時の昨年七月を基準にしている。編集部)

先達で、テレビで拝見いたしました。いまやマスコミでも、お忙しいですね。

磯村 いやいや、いいかげんなものですよ。昔という総務大臣がいましたよね。面識なかったんですが、ある日、突然電話して来ましてね、「社会保険庁の杜撰なやり方の目付役を選んでるんだけど、是非入ってくれ」ということですね。年金業務・社会保険庁監視等委員会の委員のことです。「僕らみたいな、あつちこつち飛び回ってる男が目付役になると、目を付けられる社会保険庁も困るんじゃないか、もう年も年だし」と答えるところが「やはり第三者機関というの、与党ばかりでは駄目なんだ。是非入って普段言ってることを実行に移せるようにしてほしい。そうでないとあなたが言ってる値打ちないです



よ」と脅かされましたね(笑)。この総務大臣、なかなか面白いなあと思ってるね。「忙しいのはごめんだよ」、「いや月に一回だけでもいい」、「そうか。わかった」てな具合で受けましたよ。政府の任命はみなし公務員ですから、半分、口にチャックかかったみたいで(笑)。月に一度だつていいですがね。委員会

の委員は六人で、メンバーは会に置きましてね。パソコンも一台置いて。所管が総務省なんです。当時の安倍総理の意向で総務省の中に置いたんじゃないかと、敵陣の社会保険庁に置いと。そんなことで週に多いときは三回ぐらいいです。そうすると旅行の計画は駄目ね。また孫が来た時もほったらかしで、かみさんは昼飯食わん分だけ助かってんだが(笑)。

その委員会は監視するだけではないで、時にはこういうことやたらどうだという提案をしたり、他のところとの調整ですね。本当はこれ、僕らのやることじゃないんですが、実はそれが出来ないものだから今のような状況になったんです。

——それじゃ、まだこれから委員としての仕事は続くわけですね。磯村 あと二年四ヵ月経ちますと社会保険庁という組織がなくなつて、年金の部分は日本年金機構という特殊な法人になりま

すね。その間に、まあ早く言えばきれいな体、やる気を持った組織体になって日本年金機構という特殊法人になってもらうまでのプロセスをお手伝いすることにになります。

——いま大きな問題ですね。新聞記事だけの知識なんです、

したスペースで新しい機械が設置され人海戦術だけでなく自動化が進んでいるとの印象を受けました。工場見学のと再び市街に戻り、かの有名な景勝地西湖のほとりに立つ楼外楼で秦薫理事長主催の昼食会に一同招待されました。美味しい抗州料理に舌鼓を打ちながら西湖の景色にみとれました。

### ◎上海

抗州から上海への移動はバスとなり高速道路が上海に近づくにつれ渋滞にあい一時間余の遅れで上海のホテルへ着きました。ホテルではシャルマン上海の渡部総経理、沼総務部長そして京都銀行上海事務所安藤所長の出迎えを受けました。その夜はシャルマン上海の夕食接待を受け、更に南京東路等を案内していただき上海の夜の一端に触れることができました。

翌二十六日は朝八時〜十時までホテル内会議室で中国セミナー、野村證券執行役員柳雅二氏(大32回)のお取り計らいで野村證券資本市場研究所北京所長の神宮健氏から「中国の現状と今後の動向について」というテーマで講義を受けました。解りやすいグラフ化されたデータがそれぞれに配布され、明快なご

説明で中国についての理解を深めることができました。中国の理解を深めることができた。中国の理解を深めることができた。中国の理解を深めることができた。

この旅行を通じて規模的にそれぞれ異なる工場を視察でき、多くの貴重な経験談を伺い短時間ながら実り多い旅となりました。一同旅の成果を満喫しながら、またいろいろご配慮くださった方々に深く感謝しつつ午後上海より帰路につきました。

かなり以前からたまつてとい  
うか、あつた問題なんですね。

### 三つの不作為

**磯村** ま、大きく三つのジャ  
ンルに対応してこなかつた不作為  
の積み重ねなんですね。

一つは、日本年金制度とい  
うのは、ご存知のように社会保険  
という枠組みをとっています。

昔は一人の人がおつたら、六  
十五歳以上になる人なんてのは  
殆んどみんな死んでしまつてい

るから、対象者は百人か二百人  
でよかつたわけですよ。ですか  
ら保険というものでカバーでき

たんですね。ところが、今、十五  
歳から六十五歳までを現役世代  
といつてますが、この人たちが

十人で年寄り四人を養つてゐるわ  
けですね、年金という形で。あと  
四十年くらい経ちますと十人で

七人、これを難しい言葉でいい  
ますと高齢従属人口比率とい  
います。年寄りが現役世代にどれ

だけぶら下がっているかという  
割合です。年金という分野で社  
会保険という枠組みがもう機能

しなくなつてるといふことが、  
三十年も二十年も前からわかっ  
てるのに、それをほつたらかし

らいろいろところでその制度の

ちぐはぐが出てゐる、まあ、早く  
いへば制度疲労を起している。

二つ目のジャンルは、そつとい  
う仕事をやってゐる人たち、社  
会保険庁や社会保険事務所の職

員のことです。年金の仕事とい  
うのは非常に息が長くござんし  
てね、国民年金は二十歳から掛

けます。高卒で十八歳で会社に  
入る人はここで厚生年金に入り  
ます。六十まで掛け金を掛けま

すからざつと四十年。そこから  
平均余命二十五年ありますから  
、八十五位までです。年金の

仕事というのは厚生年金、国家  
公務員共済組合、国民年金、そ  
の他それぞれ制度が違い、複雑

なんです。人の記録をざつと  
百年くらい管理していかなきゃ  
なりませんね。

その管理をする職員が実は二  
種類あつたんです。純粹の地方  
自治体に採用された職員だけで

はなく、国家公務員で国から  
給料を貰つてゐるが地方自治体  
の監督下にあるという職員、こ

れが大部分、社会保険庁の地方  
社会保険事務局及び社会保険事務  
所に勤務する職員なんです。こ

ういう人達の組合が国費評議会  
ですよ、自治労の下部組織の。  
ちよつと特殊なグループが出来  
てました。これらの日常の仕事

の監督は自治体がやつてゐる。  
自治体だつて任免権はないみた  
いなもので、給料を出してゐる国

にあるもんですからね。あんま  
り強い文句も言えない。国のほ  
うは自治体に見てもらつてると

思ふから何にも言わない、狭間  
になつちやつたんです。それが  
好き放題やりだしたんです。こ

の連中が社会保険庁との間で、  
一説によると五十種類位の労働  
強化反対の覚書を作つたんです。

新聞でご覧になつたと思ひます  
が、例えばパソコンのキーボー  
ドで一日に五千タッチかな、こ

れ以上はやらない。五千タッチ  
といひますと、時間的には二、  
三時間じゃないのかな。四十五

分やつたら十五分休むとか。ま  
あ、とにかく凡そ僕らの目から  
見れば、非現実的というか、そ

ういう覚書があつたんですよ。  
——いまも生きてゐるんですかね。

**磯村** いや、村瀬という社会保  
険庁長官が、えらい苦労してI  
LO本部と交渉して全部破棄し

ました。組合も、多少これはひ  
どいなあと思つたんでしょ  
うね。そこはまあ進歩です。こん

なこんなで名前の入つてない記  
録が五百二十四万件もある、と  
いうことになる訳なんですね。  
記録がないから、年金を貰おう

と思つてゐる人が「私の給付ど  
うしました」、「いやありませ  
ん」。逆に相談に行つた人が

「あなた記録を持つてないのか」  
と聞かれて「いや、ありません」  
「あんた証拠持つてなければ払

いません」。全部突つ返しちゃ  
つたんです。自分の方に手落ち  
がいくらあつても相手を持つて

なければ、また、相手が領収書  
を出しても自分のほうの記録が  
漏れてたら、自分の方の記録に

はありませんと、これも支払わ  
ない。無茶苦茶です。

——そこで年金記録確認第三者委  
員会が、今年の六月かに出来て、  
この人たちの救済を始めたわけ

ですね。こういう特殊なグルー  
プの職員の怠け方が大きな原因  
になつてゐます。

三つ目はそついつたことがあ  
つても、見て見ぬ振りをしてき  
た幹部の人達、あるいは話を聞

いて何も何にも手を打つてこ  
なかつた政治家の人達です。僕  
らがあえて言う必要はないでし

よう。この三つが絡まりあつて  
こつこつふうになつたんですね。  
——証拠がないと払わないとい

うのは、その当時は国民が全部  
泣き寝入りしてたのですか。  
**磯村** そうですね、全部泣き寝

てて五年の時効を撤廃したんで  
す。当り前のことですがね。選  
挙がなかつたら、あれほどのス

ピードのある処理は出来なかつ  
たでしょうね。この間、参議院  
の厚生労働委員会が参考人陳述

をやつてくれといふので出まし  
たが、どうしたらいいんですか  
という質問があつたんで、直す

時にお金がかかるわけですよ。  
今までは五年間で泣き寝入りし  
てもらつてましたから、それ以

上払ふ必要ないわけですね。で  
すから今度の調査でおそらく千  
億円単位の金がかかるでしょ

う。このお金、今まで払わなく  
て済んでたお金を払う分、諸々  
入れると私はおそらく三千億円

はかかるだろうと思つてす  
が、どうしたらいいですかと。  
一部の人は一一般会計で賄うとい

う、冗談じゃないと。一部の人  
は年金特別会計で賄う、これも  
ひどいと。俺たちが納めた年金

で役人のチョンボのお金まで面  
倒見るのはおかしいじゃないか  
と、当然出てきます。日本の財

政といふのは一一般会計からと  
別会計からとしかお金の出場所  
はないわけです。あとは寄付で  
すね(笑)。

私は個人的には参議院で、も  
う寄付しかならないと言ひました。

だれが寄付するのかと。公務員全員だと。民間企業だったらね、営業の連中がチョンボしたって、経理の人間の給料が下がるんだと。厚生労働省の職員だけじゃない、公務員全体の問題を公務員全体で負担しなさいよ、と。国会議員のあなた方もみんな同じですよと(笑)。

### 岩波ブックレットに

——いずれにしても思い切った手を打たないと。

**磯村** そんなことを、こないだちよつと本に纏めて言ったんですけど。岩波書店に頼まれた、殆んど薄っぺらいのが今度の十月の初めに出るらしいんです。本は恥を後に残すようなものではないから、あまり出したくはないんですが(笑)。新聞や雑誌なんかの論文でしたら、その場その場のテンポラリーなものとして理解できますけれど、偶々、岩波の本で、市民大学やら老人大学のそのグループの勉強会で使えるというというもので、それならと引き受けたんです。岩波ブックレットで教科書的な八ページ位の短いものです。(注)「年金不安の時代に必要知識と手間。税込み五〇四」

——今、自民党と民主党がいろ

いろ案を出してありますが、どうなんでしょうか。

**磯村** 実はね、七月の二日に、草野仁氏のザ・ワイドというお昼のテレビの定時番組に企業年金の問題をやるから来てくれと言うから出ましたが、相手は舛添さんと民主党の長妻議員なんですよ。舛添氏の大臣になる前

でしたが、舛添さんが「今度の問題は俺が掘り起こさなかったら、ここまで拡がることはなかった」、「いや、前からこれやろうやろうと思ってたんだけど、現実には民主党は年金協議には乗ってこなかったじゃないか」と言い出したわけ。で、僕は「あなた二人はいい加減にやめろ、子供の喧嘩だ。どっちがどっちじゃない、スエーデンに見習え、与党も野党も立場を離れて九年間も一所懸命やったからああいう制度が出来たんだ。いつまで経っても子供の喧嘩をやっているようじゃ、あなた方高い給料貰っている資格ない」とね。

具体的には年金事務費用禁止法案が出ますが、具体的な部分で論戦が始まりますと子供の喧嘩の部分の色彩は多少薄まるでしょうね、これはこれでいいことです。

——年金の費用を事務費に流用

するのは、制度的にはおかしいんじゃない。

**磯村** これは紆余曲折あるんですよ。もともと年金というのは国の制度、社会保険ですからね。国の制度は例えば義務教育の教科書代は要りませんね。いうなれば事務費も含めて全額国庫負担なんです。国民年金も全員が強制加入です、今はね。ところが昭和六十年までは強制加入ではなかったんです。入らない人の分まで国は面倒見ることはないだろう、望んで入るんですから入った分の事務費は個人が負担すべきという考え方があったんです。

ところが、昭和六十年から全員が強制加入になったわけなんです。義務教育と同じです。だから税金で負担しようということになってもおかしくないわけですね。しかし、一方では全員が入っているんだから、同じように掛けてる掛金の中から出してもいいだろうという考え方もあるんです。事務費を国庫負担で国が面倒みるということ、税金から面倒見るわけですね。税金は所得のたくさんある人からたくさん取って、所得のない人に分けちゃう、これを所得の再分配機能といいます。だから、年金

の事務費も、たくさん給料を貰っている人から税金をたくさん払ってもらって、その税金から事務費を負担するという一つの所得の再分配を、社会保険に生かすべき機能があるという、ここが実は、年金のお金を使うことと税金を使うことの違いなんです。国民はそんな違いはどうでもいいや、と思っても、理屈の点からいいますとやはり社会保険という制度を維持するからには、所得の再分配機能を持っている税金でまかなうというのが一つの国の見識なんです。

国民の見識からするとですね、年金のお金を使って事務費を賄うというのはおかしいのではないかと議論がでてくるんです。そこら辺の議論、実は全くやらずに昭和三十六年からこつち、ちよびちよびちよびと年金のお金を使ってきてたんです。中にはコンピューターの費用もあるし、グリーンピアを安く売った損もあるし、全部突っこめば去年度末かな、六兆八千億円。しかし、これ、嘘なんです。これは殆んど新聞にも出てませんが、僕はあつちこつちでよく書くんですが、もしそのお金を使ってなかったとする

と、いま、年金の積立金が約百

五十兆円ありますが、最初の昭和三十六年から使わなかったとめつぱなしにしておいて全部に利息がついたとして、ざっと計算しますと、十一兆円になります。いまの年金の積立金が百六十兆円位あってもおかしくない、使わなかったとしたらですね。みんなそういうこと言わずに、ただ単純に役所が発表した数字をそのまま出すがいい新聞なんです。計算できないですよ彼等には。理屈がわからないんです。

### 野村證券に入社

——当初、野村證券に入社されたんです。福島さんと、池田さんと三人で。

**磯村** そうです。福島君と池田君の三人です。そのうちの二人が東洋信託に行きました。

——証券には何年位いらっしやいましたか。

**磯村** 三年十ヵ月。

——年金のお仕事は最初から携わられてたんですか。

**磯村** 野村證券の時に野村綱雄さんが、東洋信託に来てから暫くして、これからの信託銀行とというのは年金と株式の名義書換の仕事だ、という話をしてまし



が来た。何とかしてくれと。田中さんも、この長野オリンピックの金の使い方を調べると約束をせざるを得ぬようになった。そこへ使途不明金があるという話があった。この問題を調べるについては、使途不明金の問題と、県の財政悪化の問題としての鉄道の三つがテーマだったんですが、とりあえず、使途不明金をやろうと。やりかけたら、帳簿がない。

——捨てちゃったとか。  
磯村 そう。帳簿がなきゃ調べられんじゃないか、偶々、僕は最初の時は委員に入ってたんですけど。

——どういう機会で入られたんですか。  
磯村 それがまた、よく判らない(笑)。田中康夫氏がインターネットかなんかで検索して、何を勘違いしたのか、ある人を通じて入ってくれと。偶々、委員が二人、ちよつとしたトラブルがあつて、辞めてるんです。六人のうち二人辞めたら四人になつてしまふから急いで一人入れなきゃいかんというので、話が出てきたんでしょね。これも月一辺でいいということ(笑)。どうしても会計の知識が必要だということで、向こうは

この仕事に向きだと思つてるでしょうが、こつちは小倉さんのことがあるもんだから(笑)、落つこちた公認会計士の仕返しでもしてやろうかと(笑)。  
——調査委員会の会長でいかれたのですね。

磯村 年が一番上だということ、後から入った人間が会長にさせられました。僕が入る直前に他の委員が倉庫を探したらダンプの一年分だけのコピーが出て来たんです。仕事を替る時に全部裁断機にかけていきやいのを、シュレッダーにかけてないんですよ。それで助かったんです。その帳簿を調べていたら九千七百万円かの使途不明金が出て来たんです。銀行に元帳を含む資料出せといつたら、

捜査機関でないから出せないというんで、長野地裁に仮処分申し立てをして八十二銀行から帳簿の写しを出させました。ところがこの帳簿の写しが元帳のコピーなんです。整理もせずにしてあるんですよ。これを全部整理して金の流れをある程度出してみたなら、やつぱり一億円近くの使途不明金が出て来ました。結局、帳簿の一部の控えは残ってますけど、二年分はもう

ありませんし、勿論領収書なんかも全部ありません。従つて、確信できる証拠はないわけです。我々としては出て来た元帳の写し一年分から見ると、こういうふうには認定せざるを得ない、これに対して、いやそれはおかしいというなら報告書を出してから半年以内に反論してくれ、しかし、証拠、反論がなければ、これが事実だと思つてくれ、ということにして、報告書を出して半年経つても誰も反論してこない。じゃこれは事実ですよというふうにしたんです。田中さんの次の村井知事が去年の十月、この委員会どうするのかねというのは首に出来ないのです。よつぽどこちらが悪いことをしない限り。

しかしね、やりにくい中で委員をやっているのもどうかと、この際みんなで辞めようかと。まあ報告書を書いたし、それを潮に五人揃つて辞めたんです。その後新しい委員は出来ません(笑)。そういうことにしてあれば、別に事務方が悪くないわけ

——そのまま終つたんですか。  
磯村 そうです。使途不明金は誰も触れない。検察庁もはつきりさせなかつた。それはそれでいい勉強をしました。

落ちこぼれコースを  
——会社生活も年金一筋で。  
磯村 いや、ところがそうじゃない。銀行員とはですね、偉くなるポストがあるんですよ。それは人事、秘書、総合企画。銀行によつては総合企画の代りに審査、普通の銀行は人事、秘書、審査ですね。この三つを経験して



ないと、普通、役員になれないんですよ。僕は何を経験したかといいますが、年金、証券、不動産。不動産は年金より長いんですけど、この三つは何れも塀の上を歩くような職種です(笑)。だから落ちこぼれなんですよ。  
——異色のコースを歩まれて、関西では不動産なんかで複雑な問題があつたんじゃないですか。  
磯村 はい。現場ではやつておりませんけれど、不動産部長を

四年ほどやりまして、その間はバブルの前でしたから、こういうおっちゃん方との揉めごともありました。そのけりを付けに行つたこともあります。

——話が変わり、失礼ですが、ご出身は。

磯村 満州。残留孤児のなりそこない。親爺が満鉄だったものですから、向こうで生まれて旧制中学の一年まで、向こうで、昭和二十二年一月二十三日に日本の土を踏みました。終戦後向こうに一年半いました。

——向こうの旧制中学という  
磯村 大連です。先輩には三重野さん、日銀の。七年以上ですかね。  
——それで日本では、どちらの高校ですか。  
磯村 旧制の滋賀県の虎姫中学です。ちよつと、学制改革でのが、僕らのときにありましてね、早く言や男女共学になったわけですね。それで地域柄、彦根の方に移りまして、高校三年間は彦根東高校でした。ただ高校から滋賀大へ行ったといいますが、僕の場合は引揚者で、仕事が親爺はなかつたものですから、米原で一家で小ぢやかな商売やつてましてね、学校へあんまり行つ

た記憶がないですね(笑)。

——野村證券入社後、東洋信託へ移りましたが、その時に東洋信託が創立されたんですね。

磯村 そうです。大手証券と三和銀行、神戸銀行が寄って金と人を出し合って、まあ、半分大蔵省の長短金融の分離政策で。

### 卒業アルバム作製

——学生時代の思い出は。

磯村 同級生の中でも寮やら下宿にいた人は青春を謳歌しておられて、思い出がたくさんある

ようなんですが、僕の場合はそういうような青春謳歌の思い出はありませんね。まあ、強いて言えば二つくらいですか。

一つは、簿記の小倉先生おられましたね。小倉先生の奥さんの弟さんが僕と同級生なんです。その男が同じ滋賀大に入って、小倉先生の家に遊びに行ったら「おい、お前、いまアルバイト何かやってるか」と言われるから「家の商売を手伝ってます」「俺の仕事手伝わんか」とおっしゃるんです。彦根に鋳物工業組合というのがありましたね。「その組合の監査をやってくれ。お前、俺の簿記取ったんだらう」というわけです。——優秀だったからでしょう。

磯村 それがね、簿記は優じゃないですよ(笑)。良なんですよ。知ってたのかどうかわかりませんが、小倉さんは「俺も頼まれてんだが、全部できんからお前やってくれ」と言うんです。その監査の下準備をして持ったってらです。簿記が良なものだからちんぷんかんぷんで、「もつともじゃ」と言うわけですよ(笑)。それで簿記のテストをされたらなんです。返事が出来んわけです。

「これからはな、会計というのはね」、当時は説明責任という言葉はありませんでした。「アカウントティングというのは勘定とか会計という日本語の訳になつてくれるけど、これは物事を説明するという言葉なんだよ」、いまでいう説明責任ですね。「説明できるように書いてみたらどうや」と。

家の商売手伝って、別に学校出て勤める積りはなし、ただ親爺の商売も先行きどうも見込みがないしね。会計士でもやるかと、ついついその気になって二年生と三年生に公認会計士の試験を受けました。今みたいに教える専門学校ありませんし、一人で本を買ってきてや

ったんですが、二年の時に受けたのは物の見事に全部落ちました。七科目ありましてね。三年に受けた時は原価計算が五点足りなくて落ちました。当時はみんな結果を覚えてくれたんです。何が何ほ足りなかった。いやあこれでもう駄目かなと思いましたが。しかし、それが実は会社に入って二十年位してから役に経ちましたね(笑)。



出しか残っていませんでした。小倉先生を馬鹿にしたようなおかげで。ゼミは山本先生です。——二つ目はどんなことですか。

磯村 ある日、小倉先生の隣に住んでた同級生と、もう一人同じように自宅から通ってた東高校出身の男と、三人でなんか一つ残していこうよと喋っていた時に、何がいかとまったんで

す。まあ、二人は割合、写真が好きなんです。もう一人の男は絵が好きだったんです。それまでずっと卒業アルバムとこの程度しか残っていません(笑)。

——まだまだ伺いたいんですが、最後に陵水会へご意見とか感想とかございますか。

磯村 正直いって全くございません。殆んど関わりを持ってないような状況ですから。正直、陵水会は本部のことも東京支部のこともお手伝いは何もしていませんし、しょうもないボランティアをたくさん引き受けて。

——今、お役職はどのくらいお持ちですか。

磯村 表向きは四つだけです。どね。なんか足腰動かしてりや、びんびんころりといけるだろうということ、頼まれたボランティアは極力お引き受けて、下らんことを考える時間を少しでも少なくしておこうと思っております。そんなことで、つい

いよいよとやってくれんか」「いいわよ」というわけです。暗室の中に二人つきりて入ることはしないよとか言ってます(笑)。

——函館大学の方は、月に一回とか。

磯村 月に二回です。日銀のポランティアをちょっとやっ

して。

——新聞で拝見しました。日銀金融広報アドバイザーですか。これは金融政策の。

磯村 いや、金融政策じゃなくて。各地の市民大学や老人大学や消費生活セミナーの市や区役所や東京都でやっていますけどね。ああいったところの講師、早く言や、最後の資金は騙されないものが最高よ。でも騙す人はたくさんおるけれど、引つかかるなよとか、株式や投資信託を買う時にはこうしなさいとか、あんまり欲かくなとか、そんな話を。

——みなさん関心のある傾向ですからね。

磯村 これが年間、二十回くらいですかね。あちこち講演があつて。

——それにはテレビとか色々ありますね。母校の講演にも。

磯村 そうなんです。滋賀大には一年ほど非常勤講師として行つてたことがあるんです。もう五、六年前ですか。国際会計で(笑)。

### 小田実氏の訃報から兄への回想 海野廣司(大15)

昨夏、市民運動家の小田実さんが逝去されたとのニュースが

テレビや新聞で報道されました。このニュースを聞いて学生時代を懐かしく思う人もいるかと思ひます。私どもの学生時代は六十年安保闘争の後、日本の高度成長が始まり、東京オリンピックに向けて、東海道新幹線や東名、名神高速道路が建設された時代であり、またようやく国際化の波が押し寄せてきた時代でありました。そんな時代背景もあつたのでしようが小田実さんの「何でも見てやろう」が大ベストセラーになつていました。大学祭の講演会に氏を呼ぶという話が持ち上がり、当時一躍有名人名となつた氏が「彦根に来てくれるだろうか?」という半信半疑の中で快く了承され、気取ることなくジャンパー姿でのっそりと大学構内に現われたことが思い出されます。この交渉に当たられたのが陵水新聞会の奥谷弘和氏だったと記憶

します。奥谷氏はその後、自治会長を務められ小生の下宿に来られた時に壁に貼つてあつた小生の兄

の版画を見られて、大学祭のポスターに使いたいとの話がありました。兄の了承を取つてこの版画が大学祭のポスターとして構内や彦根の街に貼られました。

兄は当時二十四歳で少年時代から親しんだ版画をようやく自分の一生のよすがにしようと考えていた頃で、三年ほどのブランクの後、久し振りに制作した作品でした。「壁」と題されたその作品は、なにかにいきまり何かに立ち向かおうとする兄の内面を表したものでしたが、見るものには決して快い印象を与えるには程遠い、あまりに観念的なもののように思えるものでした。この頃の作品は心の内面の葛藤を奇妙な人体画で表現したものが多かつたのですが、数年後に全く作風が百八十度転換され、日本の古風景とそこに生きる人間をモチーフとしたもの

に変わっていききました。黒色の上に多色を重ねていくという独特の技法を用いて消えてゆくもへの郷愁と、そこに息づく人間を描いていたようです。同時に少しずつ版画家として東京の画廊にも並べられ、ファンも増えて始めていったようでした。人体画から古風景への変化の理由は小生は知る由もありません

が、高度成長の真っ只中で忘れ去られていく、人間と自然の融和を心の支えとしていたようにも次の一文からも感じられます。

人は街へ街へと文明を追い急ぎ古いただずまいは奥へ奥へと消えてゆく  
そのあとを追うように私は心のふる里を  
素朴な人間の生活を求めて今日も歩き廻る



大学祭に使われた版画「壁」

あのかやぶき屋根の匂いとその下で息づく人々の生活  
そして自然との調和のいかに美しいことか  
やがては現代という名の重みを支え切れずに  
幻の昔語りになるにしても

した。小生がニューヨークから一時帰国した際に何を思ったのか自分の作品のトレイを開けて「欲しい版画を持っていけ」とかなりの数の作品を持たせてくれたことがありました。今、思えば寿命の短さをその時に予感していたのか、それが兄との最後の機会となつてしまいました。

その年一九七九年の秋に三十九歳の若さで脳出血のため還らぬ人となつてしまいました。丁度、生業の染色業にきりをつけ、版画で一本立ちすることを決心した直後のことと聞いています。早朝に日本からの国際電話で起こされ、また会社からの仕事の電話かと思つて電話をとつたら兄の訃報で、何はとりあえずケネディ空港を飛び立ったことが今更のように思い出されます。

多少、名が知られるようになって、版画家としての体裁や容貌とはかけ離れた、作品に描かれたように一市井人として生きていた様子でした。小生の学生時代の下宿の家族が小生の実家を訪れたことがありました。その時、兄が車で静岡の観光地を案内したことが、卒業後も下宿を訪ねる度に話題となつたことがありました。そ

の下宿のご主人も昨年、他界されたとの報をご長男から知らされました。年月の経過をつくずくと感じざるを得ません。「昭和は遠くなりけり」といったところででしょうか。

兄の版画はその後、全作品と全版木を静岡県島田市に寄贈し蓮台渡しで有名な大井川のたもと旧街並みの一面に島田博物館の別館として海野光弘記念館が二〇〇四年に開館され保存されています。ご興味のおありの方はぜひ一度ご覧下さい。

小田実さんの訃報を知り、彦根で過ごした学生時代や大学祭、また兄や下宿のことを久し振りに懐かしく思いだし、年月の経過の早さと、自分の歳をつくづくと感じるこの頃です。

島田市博物館別館（海野光弘版画記念館）

JR東海道線島田駅から金谷行きバス向島西下車徒歩五分  
東名高速吉田インターから十キロ二十分

休館日…月曜日、祝日の翌日、年末年始  
入場料…大人三百円、小人百五十円

## 懐かしの彦根、聖愛教会・

### スミス記念堂を訪ねて

奥村勇雄（大15）

今年二月二日付日本経済新聞朝刊文化欄に、森将豪・滋賀大学経済学部教授の「和風教会堂 願い届き再建」の記事が掲載された。多くの彦根市民、滋賀大学経済学部有志や陵水新聞会などによる保存活動により、移築して残された「スミス記念堂」に関する報道であった。

彦根にある聖愛教会の礼拝堂であったスミス記念堂は堀端の市道拡張工事によって取り壊される運命にあった。しかしながら保存する会などによる幅広い活動の結果、平成十八年十二月七日、正面に天守閣を望む中堀に面した彦根市民病院看護婦宿舍跡地に移築された。こうした運動を恒久化するためNPO法人「スミス会議」が設立され、スミス記念堂の運営を含む幅広い活動を続けられていることをインターネット情報等で知った。

滋賀大学正門を背にし、右手の堀に面して聖愛教会は建てた。その協会に下宿していた先輩のもとを何度となく訪れた。しかし、報道されている礼拝堂について全く記憶にない思

い出すことができない。とする彦根には堀端に建つ聖愛教会のほかにも一つ聖愛教会があったのだろうか。設計を担当した彦根市観光課久保達彦氏に電話で次の事実を確認した。

「スミス記念堂」と呼ばれる礼拝堂は、滋賀大学正門から見通せる彦根城中堀に面した聖愛教会にあったこと。彦根には聖愛教会は二つ存在しないこと。久保氏からファックスで拡幅前の平面図を送っていただいた。送られてきた図面を見ても想い出せない。先輩の下宿であった建物はどの建物だったのだろうか。ということ、この五月末、彦根に出かけスミス記念堂をこの目で確認することとした。

三年ぶりの彦根駅だ。駅前前の観光案内所で、頂いた彦根市内の観光案内をみながら、なんの

予備知識もないまま、夢京橋・キャッスルロード少し手前の俳遊館に行くことに決めた。それは大正十三年に建てられた信用金庫だった建物を利用した、俳句をテーマとした資料館であった。朝も早いせいとその日初めての訪問者だったようだ。館内に設置された市内観光用のビデオのスイッチを入れていただいた。折角のご厚意、と見ることにした。

俳遊館で二十分ほど過ごしたのち、聖愛教会へと中堀添いの道路から一本南に入った、鍵の手となった町割りが三個所ある道路を西（湖岸方向）に向かって歩き始めた。到着した大学の正門に建ち、中堀を眺める。

近代的に装い建て替えられた聖愛協会に向かう。一方の扉が半ば開かれ、オルガンの伴奏に澄んだ歌声が漏れている。音楽を終えオルガンの前から振り返った女性と目が合い挨拶を交わす。そしてスミス記念堂と聖愛協会との関係を伺うと、「スミス記念堂はもう礼拝する場所ではありません。そして聖愛教会とも関係ありません」とのお話

が返ってきた。そこから五分ほど足らず中堀に沿った十メートルほど拡幅されたという道路を京橋に向かつて歩く。そこに「スミス記念堂が移築されていた。」「一番いい場所に移築していただきました」。彦根東高校を卒業され長く横浜におられたというボランティアとして案内を伺った。移転先が決まらないまま松原にあった彦根市の施設、古城跡地に解体保存されていた記念堂の部材は、またまたの災害で水に浸かり、まさに危機に瀕していた。そうしたとき、この場所での保存が決まったとのこと。『築城四百年祭』が終わったのちもミニコンサートや詩の朗読会など様々な企画でこの記念堂を活用したい、という話しておられた。

スミス記念堂の正面から北に向かつて見上げるとそこに天守閣がある。形こそ違え、ともに花頭窓（かとうまど）・唐破風を持つスミス記念堂と彦根城天守閣。両者は以前にも増して強く結ばれているようにも見えた。

残念なことだがスミス記念堂をじっくり見ても、やはりかつてこの建物を見たという記憶は蘇ってこなかった。町も様変わりしたようだ。長



スミス記念堂

浜行きのバスはとつくの昔になつた。市内のバスは近江鉄道バスではなく湖国バス。そして一時間に一本程度しかないとは。懐かしの定番焼そばの食事処「とり柳」に入り、隣に並んだ近江交通のタクシー運転手さんとスミス記念堂を見て来たことを話題にすると、「とり柳」のオヤジさんは学生さんを下宿させていた建物があったこと、自分も二〜三度行ったことがあると話された。礼拝堂も当然のこと覚えていたとのことだつた。

天秤櫓の脇では赤い小さな花が咲いていた。説明板によればこの三ミリほどの花は明治二十八年牧野富太郎が発見し、昭和五十一年の再発見されたバラ科に属するオオトックリイチゴという彦根固有の植物とのこと。これも初めて知った。大学のグラウンドに近い山崎楼のあたりまで行つた。さすがにこのあたりまでくる人はいないようだ。静かだ。草を踏みしめた跡もない。学生時代、入場料を惜しんで扉の間から忍び込んだ名称を未だ知ることのない門には、しつかりと門が掛けられていた。山崎楼の先から内堀を眺めると、今そこには連絡道があるようだ。いけすの境なのだろうか。その先に、玄宮園前から発着する彦根城御堀めぐりの屋形船がウターンするところだった。四年間過ごした彦根。そこにはまだまだ知らない何かがいっぱい隠されている。彦根で知らない何かを見つけれる機会をまた持ちたい。今日の思い出をさかんに新幹線でビール。夢を見た。

## 米国年金後日譚

昨年、本紙に米国年金について寄稿しましたが、その後日譚を報告します。

社会保険事務所に書類提出後、三カ月ほどしてフィリッピンの米国社会保険事務所より、請求の確認と十数ページにわたる申請書類が送付されてきました。過去の履歴や無犯罪証明、さらに現在の収入等（特に大切なのは、年金受取口座の取引銀行での証明書）を記入して郵送。二カ月ほどして「この申請は、期間を満たしていないので却下。十年未満の場合は日本での厚生年金の付保を調査の上、後日、連絡する。」との手紙がま

いこみました。「米国に十年以上勤務しているから、この裁定はおかしい、裁定の根拠と再調査をお願いしたい」旨の手紙を返信。ところが、一ヶ月程して銀行より「米

国年金入金しました。」との連絡あり。いったいどうなっているのかと、再度、米国社会保険事務所に手紙。入れ違いに「年金支払い通知、曰く、これこれの年金を支払います。但し四十クレジットに達していない（三十九クレジットが記録である）

ので、疾病保険は適用されない」という手紙が入り、以降、毎月少額ながらも、米国年金が振り込まれるようになりました。（米国年金は日本が二カ月に一回の支払いに対して、毎月送金されます。）

その後、ご丁寧にも家に国際電話が入り、「手紙を送っているが、理解できたか？」との確認がありました。自分では十年以上のつもりでいましたが、米国では四半期を単位としてみる（一四半期をクレジットという）ため、赴任、帰任の月により計上されないクレジットがでてくる可能性があるので、当初の申請から約半年して、ようやく無事、受給が実現いたしました。

## 東京陵水会囲碁会便り

十二月一日（土）十時三十分より、今年度第二回東京陵水会囲碁大会を、全国情報サービス産業厚生年金基金会館で開催しました。今回は、二名が当日都合により欠席され、十四名が参加し開催しました。一人が四回戦を戦い、スイス方式（同じ成績同士で当たってない相手と対戦しつつ勝ち数で最終的勝者を決める）による得点で順位を争いました。大会後懇親会に移り、熱戦を振り返ったり、四方山話に花を咲かせたり、和氣藹々のうちに無事大会を終えることができました。次回は本年六月を予定しています。

今回の大会表彰。

優勝水引芳雄六段（大2）、二位刀裨館信雄四・五段（大8）、三位神崎栄次六段（大3）、五位大久保義雄五段（大6）、七位。北村平太郎七・五段（大5）、十位天田志郎六段（大5）。

新規参加希望はご連絡ください。

幹事…三井 電話…〇四五一九四一―一七六一。畠山 電話…〇三一三八四八―二三二二

# ゴルフ談義

七十一回東京陵水ゴルフ会  
平成十九年九月十三日(木)  
金乃台カントリークラブ

## 西坂杯争奪第一回大会

宇治原杯取り切り戦も兼ねて行われた第七十一回ゴルフ会は、実に四十八名エントリー四十三名十一組の賑やかな大会となった。晴・無風、絶好のゴルフ日和に恵まれ、熱戦が繰り広げられた。ハンデ改定直後でもあり、七位までアンダーパールの大接戦であった。

この接戦を制したのは、五アンダーの好スコアを出した大十二回の田村さんで、宇治原杯の取り切りカップも合わせて獲得した。準優勝は、大八回の松浦



71回優勝者へ

さんで、三アンダーで優勝は頂きとの思いが強く、初優勝の夢を碎かれ悔し涙を呑んだ。ベテラン大二回の柴田さんが二アンダーの好スコアで三位入賞した。大十五回卒業五名が飛び賞入賞、ベテラン本二十四回の楠田さんが十位入賞、本二十四回の西澤さんは始めてのBB賞であった。

表彰式では西坂杯が始めて授与され、田村さんは、宇治原杯取り切りカップと両手に花でご満悦であった。

### 成績 (賞金獲得者)

- 優勝 田村 寿夫(大12) 66(25)
- 準優勝 松浦 幸作(大8) 68(22)
- 三位 柴田 茂夫(大2) 69(17)
- 四位 白井 和宣(大14) 69(26)
- 五位 富田 博司(大15) 70(10)
- 七位 長嶺 英則(大15) 70(22)
- 十位 楠田 迪彦(本24) 72(31)
- 十五位 奥村 勇雄(大15) 74(30)



72回優勝者へ

- 二十位 平居 俊雄(大12) 76(16)
- 二十五位 箸方海三(大4) 79(19)
- 三十位 山本 保(大15) 79(25)
- 三十五位 鶴見芳令(大15) 81(26)
- 四十位 木戸 彪(大16) 87(21)
- BB賞 西澤 正(本24) 88(22)
- ベスグロ 金井 79、
- ニアピン 箸方・天木・西坂

(2)・山本(孝)・山本(保)

### 大波賞 鶴見(7打差)

水平賞 西澤 (山本保 記)

七十二回東京陵水ゴルフ会  
平成十九年十二月四日(火)  
金乃台カントリークラブ

### 昨日の雨が嘘のよう!

今、十二月?と思えるほど穏やかで、風も無く、昨日の冷たい雨が嘘のような好天に恵まれ第七十二回コンペが盛会裏に行われた。今回初めてメールによる案内者四十数名を含め、九十三名の東京陵水ゴルフ会員に案内をし、三十八名エントリー三十六名九組でのコンペとなった。絶好のコンディションであったが、昨日の雨の状況の中でピンポジションのまま傾斜位置にピンが切ってあったため、グリーン場でのパットの相性が大きく勝敗を分けた。優勝は喜

寿を超え益々お元気な本二十四回の楠田さん、準優勝には、同ネットで大十回の畠山さん、三位は第四回の箸方さんであった。水平賞、大波賞は保正さん、西澤さんと今回は本二十四回卒業オンパレードであった。又、守谷副支部長の第5位を筆頭に、西坂支部長ラッキーセブン、加藤幹事長十五位、山本事務局長二十五位と飛び賞に入賞し、新たな船出に花を添えた。賞金獲得者入賞者は下記の通りであった。

尚、次回第七十三回は平成二十年四月九日(火)に開催いたします。

### 新規参加希望者募集!

山本保 (〇四七―三三七―四七八〇)、  
yrtax\_888@icnet.ne.jp

### 成績 (賞金獲得者)

- 優勝 楠田 迪彦(本24) 68(31)
- 準優勝 畠山 義生(大10) 68(13)
- 三位 箸方 海三(大4) 73(19)
- 四位 天木 清次(大8) 73(18)
- 五位 守谷 貞夫(大12) 73(24)
- 七位 西坂 徹雄(大9) 74(20)
- 十位 竹内 鋭二(大4) 75(20)
- 十五位 加藤 博善(大14) 78(21)
- 二十位 平居 俊雄(大12) 81(16)
- 二十五位 山本 保(大14) 84(25)
- 三十位 保正 保(本24) 88(32)
- BB賞 浦谷 政夫(大7) 94(26)

## 陵水散歩会

陵水散歩会は、当初東京陵水編集部スタッフが、たまたま気候も良い平成十六年四月、早め

に集まって印刷所に行くまでの時間、少し歩いてみようということから始まりました。これが第一回となりました。間もなく参加者も一人二人と増えてきました。

皆さんは東京にはまだまだ見てないもの、訪れていない所が多いのに気が付きました。地図やガイドを参考の小さな旅になつていきます。原則月一回を定例会として開催しています。全会員が参加できる日程を決めることは難しく、できるだけ都合を前もって知らせる貫つてから日程を決め、Eメールで全員に連絡をとっています。

ウォーキングは午後一時から遅くとも午後五時には終了。歩き終えた後、打ち上げ会を開催。談論風発で楽しい一時を過ごし、次回コースの選択をして解

散しています。

○平成十九年の開催日とコース

一月二十五日：新宿駅から  
(夏目坂・神楽坂・靖国神社)  
九段下駅。二月二十一日：駒込

駅から(古川庭園・王子神社・  
板橋宿)板橋区役所駅。三月二

十二日：阿佐谷駅から(善福寺  
川沿道・大宮八幡・妙法寺)中  
野駅。四月二十日：住吉駅から

(亀戸天神付近の旧蹟巡り)浅

草駅。六月七日：小金井駅から  
(野川沿道、深大寺)調布駅。

参加希望者にはハガキかEメ  
ールにてご連絡します。その都  
度のお申し込みでも結構です。

世話人 林史欣(大8・東京陵  
水編集委員)

中野区南台二一五—一〇  
電話〇三—三三八—四四三二  
Eメール: hysckys@nifty.com

(林史欣 記)

## 彦根コンフェレンシャル

——滋大陵水新聞会

### 学生と政治について

話すということはあまりありま  
せん。

近年顕著に表れている政治的  
無関心は多くの学生にとって無  
縁ではありません。特定の政党  
を支持するということは少な  
く、政治家の自論に興味を示す  
ことも多くありません。「どこ  
の政党が与党になっても何も変  
わらない」という意見もたびたび  
聞きます。現在の滋賀大学にお  
いては多数が政治に関して無関  
心だといえます。しかし、一方  
で政治に興味のある人がいても  
日々の生活の中で政治に対して

めに近藤學教授や梅澤直樹教  
授、前述の田中英明助教授など  
指導者は学内に十分おられる。  
政治に興味のある学生はこの教  
授達の講義を受講していると考  
えられます。しかし、政治に興  
味の無い学生はこれらの講義を  
受講しなくても進級が可能であ  
り、卒業もすることが出来る。  
そのため政治に関わりをもたな  
いまま学生生活を終えることが  
可能です。こうした要因も滋賀  
大学において政治的無関心が多  
くなる要因の一つではないかと  
思います。

かつて学内紛争が起こっていた  
時代と今の時代は大きく異なり  
ます。政府や学校の方針に異  
議を申し立て、行動を起こすこ  
とは考えにくいのが現在です。  
なにもこれから学内紛争を起こ  
すように促すつもりは毛頭あり  
ません。しかし、今は政治に興  
味があっても自分の考えを述べ  
る機会が数少ないのが現状で  
す。学生紛争時代にあったかど  
うかは定かでは無いが、学生間  
に政策論争が生じることが今は  
ありません。仮にあったとしても  
もそれは友人間だけにとどまり  
ます。だが、やる気さえあれば  
論争が出来る機会は学校にあり  
ます。一昨年近藤學教授の下行

われていた「プロジェクト科目」  
では憲法九条を変えるべきか否  
かというテーマでグループワー  
クを行い、他大学の学生と討論  
することが出来ました。また、  
学生主体でもゼミナール協議会  
主催の学内討論会や、インター  
大会でも自分の考えを述べる機  
会はある。しかしながら近年学  
内討論会で政策論争を行うこと  
は無く、インナー大会でも同様  
でした。こうした背景として学  
内紛争の起こっていた時代は政  
治が身近に感じられたのと同じ  
れない。だが、現在政治との距  
離は遠く、自分たちの世界と切  
り離されたものと感じられるの  
だろう。それが今の「政治に関  
与しても何も変わらない」とい  
う考え方の要因だと思ふ。

政治に無関心の人が多い現  
在、これを打破するための有効  
な手段は見つかっていません。  
これは現代の若者に限った話だ  
けではなく、中年世代にも関わ  
る話だと思ふ。近年では幼  
い子供を持つ親も政治的無関心  
で選挙権を放棄することがあり  
ます。幼い子供も将来は選挙権  
を有する時が来ます。その結果  
たして選挙権を行使するでしょ  
うか。そのため政府の考える政  
治的無関心を打破する方策は

我々学生だけではなく、その上  
の世代にも影響のあるものでな  
くてはならない。  
大学生に対して政治に関心を  
持つてもらおうようにすることは  
難しいかもしれない。なぜなら  
時間の選択が各々にあり、一同  
に話をする機会が無く、興味を  
もたせるきっかけを作るのが困  
難だからです。学内では講義ぐ  
っかけは無いと感じます。しか  
し、近年ではテレビ等で政治家  
を見る機会が多くなります。  
「TVタックル」や「たかじん  
のそこまでいって委員会」、「朝  
まで生テレビ」といったように  
政治を語る番組は多くありま  
す。政治的無関心な人達はこう  
した番組を見ることで政治に関  
心を持つきっかけとなつて欲し  
いと思ふます。そして学生の本  
分である勉強を通して政治に対  
しての意識を次の世代に繋げて  
いくことが我々の使命の一つで  
あると思ふます。

(陵水新聞会 加藤 芳章)

平成十九年度年会費納入者（十一月三十日現在・前号記載者を除く）  
 沼尻恒雄（本14）、若林定男（本18）、小林満男 三木健蔵（本19）、田波隆興（本20）、井口博民（本21）、辻 雅仁 山崎昭雄（本22）、西田延弘（本23）、市川博史（別5）、外江龍太郎（工2）。川本 茂 渡辺貞二（大1）、畑 宗明（大3）、青山松太郎 西岡隆夫 松岡正曜 福本俊昭（大4）、青島弘（大5）、岡田 亨 久木義雄（大6）、木下 実 後藤利彦（大7）、西村 信（大8）、奥村啓一（大12）、西藤和弘 溝口次朗（大13）、石田昭郎 清水 毅 田中泰弘 古川浩司（大14）、奥村勇雄 細江諷夫 吉田勇夫 長嶺英則（大15）、佐藤充宏（大16）、中根昌孝（大17）、西澤弘行（大19）、角田健一 松山 仁（大20）、若林 寛 大矢武史 榎原德行（大23）、徳山 均 味田耕二（大24）、小谷恭一（大25）、近森彦義（大26）、磯野和也（大30）、杉野雅哉（大31）。

※前号へ掲載漏れのお詫び  
 田波隆興氏（本20）は編集部の見落としにより、前号に掲載すべきが漏れておりました。お詫びして訂正いたします。

謹賀新年



株式会社 金乃台カントリークラブ

代表取締役社長 石坂 信行

〒300-1211 茨城県牛久市柏田町3432

TEL 029-872-0182 FAX 029-872-3182

『今年も皆様のご来場をお待ちしております』

第20回記念『琵琶湖夢街道 大近江展』

会期：平成20年2月28日（木）～3月4日（火）

10時～20時（最終日は18時まで）

会場：日本橋高島屋8階催事場

2008年は紫式部の源氏物語千年紀・源氏物語にちなむ紹介も！

【主催】(社)びわこビクターズビューロー【後援】滋賀県【協賛】(社)東京滋賀県人会・全国滋賀県人会連合会

編集室  
 所感

東京陵水会の定期総会は、会員数の増加にもかかわらず、このところ百名前後に推移しています。母校の発展に期待を寄せない卒業生は少ないと考えます。期待と支援の気持ちを実現の力としてまとめるには総会に参加して意志の統合を図ることが切望されます。卒業生の意欲を実行力にまとめるため総会への出席を今号は一層強調しました。

中国の経済発展は中身には問題がありますが、日進月歩の感があります。在中日本企業の一部はこの発展を牽引している側面があり、その代表的企業に多くの同窓生が関わりをもっています。その活躍状況の一端を中国視察旅行記として前支部長宇治原さんから頂きました。

年金問題は全国的な大きな関心事です。この問題を読み解くカギを年金問題解決へのリーダーの一人、磯村元史さんに多くのお話をお聞きしました。

当紙編集スタッフもこの十年を担当してきましたが後進の輩出を願うや切です。

(H)



「会報」原稿・情報のご送付先

林 史欣（大8回）  
 〒164-0014

中野区南台二一五一一〇  
 (TEL・FAXとも)

〇三―三三八―四四三二  
 ※編集室のメールアドレスは

hysckys@nifty.com  
 (次号分〆切日五月末日)

発行所

〒236-0004

横浜市金沢区福浦1-14-9

守谷輸送機工業(株)

電話045(785) 3716

印刷所

〒110-0015

東京都台東区東上野1-28-3

船舶印刷(株)

電話03(3831) 4181